

「突如の入院」

代表幹事 井上研二

先の「新年にあたって」送信から3日後の1月13日（土）、風邪をこじらせてとうとう39度の発熱により広島市民病院の救急診療科に駆け付け、レントゲン、CT、血液検査等の結果「肺炎」と判明、即入院の診断を受けました。抗生剤の点滴注射や酸素吸入等の治療を受けて平熱に戻ったため5日後の18日に退院し、現在も抗生剤等の薬の服用を続け、自宅療養しています。人は病気になって初めて健康の有難さを知ると言いますが、まさにこのことを実感した次第です。普段あまり健康の有難さを意識せず過ごしていますが、いつ病魔に見舞われるかも知れません。肺炎と言えば、ガンや脳疾患と並んで死因のナンバー3にもランクされる病気で要注意です。われわれ「高齢者」は「死と隣り合わせ」にあることを自覚してもっと自らの健康に普段から留意すべきだと痛感しました。そこでマスターズの新企画として提案したいのが健康に関する講演会の開催です。幸いわが広大マスターズ広島には医学部出身の会員が少なからずおられます。ぜひともこれを早期に実現したいと思いますのでよろしくお願い致します。

(2018年1月20日)